

追悼・平和歌い10年

阪神・淡路大震災などの大規模災害や戦争などの犠牲者への追悼の思いと平和への願いを込めて、レクイエム（鎮魂曲）を合唱する「レクイエム・プロジェクト」が来年、10年を迎える。節目を記念したコンサートが1月21日に神戸文化ホール（神戸市中央区）であり、総勢約230人がそれぞれの思いを胸に、祈りを込めた歌声を披露する。



コンサートに向けた練習風景の一コマ。団員の輪の中で上田さんが熱心に指導する＝神戸市灘区

レクイエム・プロジェクト 来月21日、神戸で230人公演

阪神大震災
23年

レクイエム・プロジェクトは、神戸ルミナリエの音楽担当を1999年から務める大阪出身の作曲家、上田益さん（61）が中心となり、2008年に神戸で始まった。

阪神大震災の発生日、上田さんは東京都内の自宅のテレビで被害の状況を見ていた。「がくせん」として。音楽家としてできることはないのか。思いが形となったのがこのプロジェクト。団員を募集すると約60人が集まった。

活動開始時から参加する青山真理子さん（60）は、神戸市長田区で被災した。近くに住んでいた、当時8歳の長男の同級生一家ががれきの下敷きになり、その後襲った火災で全員が亡くなった。「自分の家族のことで精いっぱい助けられなかった。泣けなかった」。後ろめたい思いを引きずったまま時が流れた。プロジ

エクトのことを知り、「はっとした。歌うことで少しでも寄り添うことができるんじゃないかと。忘れないからね、と」。

プロジェクトは震災から15年となる10年のコンサートで終わる予定だったが、団員の希望で続行。09年に水害に遭った佐用町や11年の東日本大震災の被災地、広島や長崎など被災にもテーマを広げ、現在全国7カ所に合唱拠点がある。上田さんは団員の話をもとにした、被災地の詩人とともに練ったりした組曲など60曲以上を手がけてきた。

今年3月から参加する高橋聡さん（64）、和子さん（61）夫婦は神戸市中央区で被災し、和子さんの実家は佐用町で水害にも見舞われた。2人は「自分たちに今があるのは周囲のおかげ。いろんな方々の大事な思いを寄せ合えるコンサートになれば……」と話す。

記念コンサートには各地からメンバーが集まり、組曲「レクイエム、あの日を、あなたを忘れないく」などを歌う。午後1時半開演で、一般は前売り1800円で当日2300円、高校生以下は前売り当日とも1千円。

問い合わせは上田さん（080・5181・6692）。

（阪本新太郎）